

どひゃー、日本銀行（以下、日銀さん、日銀）が、火野正平にお金について書けっさ。

どういふ風の吹きまわし？ まあ書けっっちゃ書くけど。

オレにとつてお金というものは、はるか上空成層圏の上あたり、風に吹かれて右から左、西から東へと飛びかっているものであり、全く実態が掴めないものである。結構稼いでいるのに。

たまにオレの懐に飛びこもると元気なお金がオレを指して降りてくるが、大気圏突入時に燃え尽きてなかなか着懐（注）しないのである。若い頃からずつとこんな調子。

そもそもお仕事をしてお給金を頂いて、その中から物を買ったり遊びに行ったり、これが健全な状態だよ。

しかし火野正平はこのニュートンの法則を全く無視し、稼ぐ前に使うのである。

なぜそうなったかは今となってはもう原因は探れないが、昔よく仕事をしていたある撮影所の経理に乗り込み、どうせ近い将来なにか仕事があるだろうと赤い伝票に金額とサインを書き、まあ俗に言う「前借り」をするのである。

撮影所の経理も変に納得してすんなりお金を出してくれる。

しばらくして一本のドラマを撮影することになる。その中のある役を「AにしようかBがいいか、



絵・江口修平

着懐せず

火野正平

そうだ火野正平からは回収すべきものがある。だから火野にこの役をさせよう」。そうやって前借りを解消する。所属する事務所に対してもしかり。このことを俺は先物取引と呼んでいる。

これは仕事を続けていく上でかなり有効な手段である。

たいして技量もない俳優が半世紀もの間仕事を続けてこられたというのも、こんなことをしていたからじゃないでしょうかね。てへ。

オレは若い頃から草野球チームの一員だった。団体競技なんて大キライだったけど、団体で飲むのは大スキなゆえ。

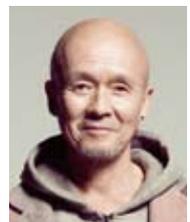
そのチームに日銀さんの銀行マンがいる。結構優秀な男で、色々な職業の猛者たちの集まりをうまく束ねて数年間チームの監督をやったりしていた男。ある日この男と真剣に話をした。

「チームで日銀に突入するから中からうまく引きしろ」

男は言った。「まかせろ。裏門開けて待っている」
オレはあの裁断されていないつづりの一万円札、あれをいっばい持って買い物に行きたかったんだ。前から。

いつか野球チームのユニホームを着た一団が日銀を襲った、というニュースが出たらオレ達だと思ってもらいたい。てへ。

（注）火野氏の造語。懐に留まるの意。



ひのしょうへい●1949年東京都生まれ。子役として「少年探偵団」（フジテレビ）他に出演。代表作にNHK大河ドラマ「国盗り物語」、映画「俺の血は他人の血」。最新出演作に、ドラマ「警視庁南平班～七人の刑事～」(TBS)、「池波正太郎時代劇スペシャル顔」(J:COM ×時代劇専門チャンネル)。「にっぽん縦断こころ旅」(NHKBS プレミアム)では旅人として自転車に乗って全国を走っている。

*編集から火野氏へ

お札は国立印刷局で印刷しており、日本銀行に持ち込まれる際には、既にお札の形をしているので、裁断されていないお札はございません。あしからず、ご了承ください。